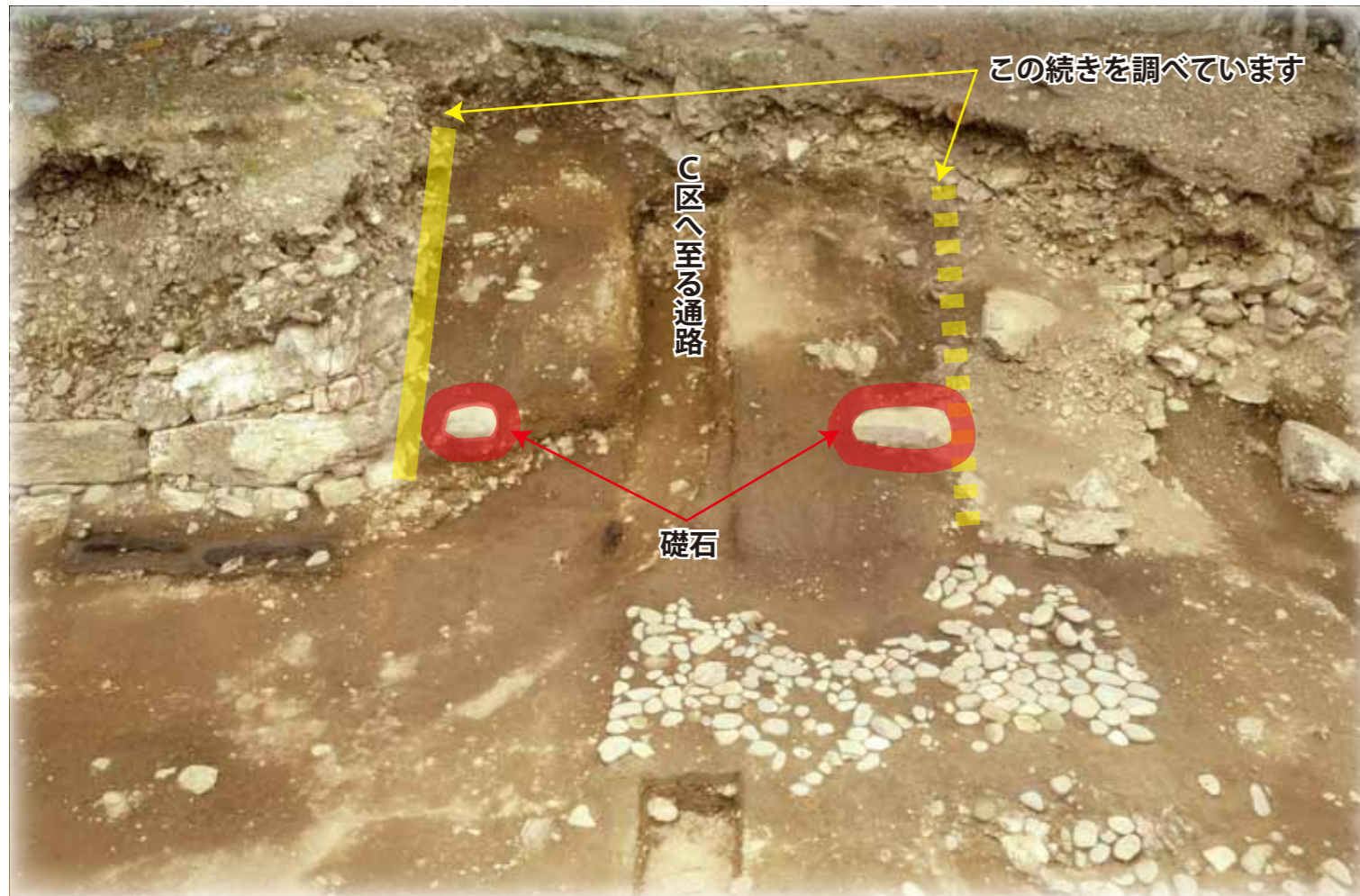
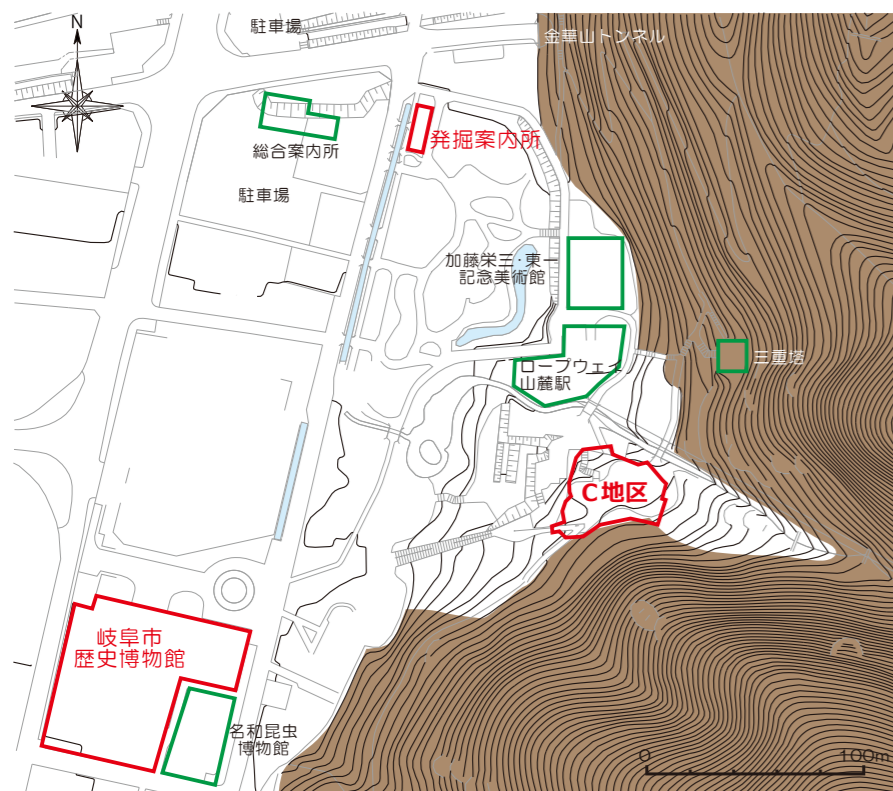


C9区の調査

C区の平坦面（「千畳敷」）の入り口の構造を調べています。下の段から繋がる通路や階段が見つかるはずですが、現在調査中です。



C区の下の段での発掘状況（昭和62年）



発掘案内所では、これまでの調査の出土品や解説パネルを展示しています。

また歴史博物館の常設展で、信長居館跡からの出土品が展示されています。

ぜひ、この機会に併せてご覧下さい。

信長公居館（岐阜城千畳敷遺跡）発掘調査

平成24年度現地公開資料

平成24年11月24日（土）



現在、発掘調査は「千畳敷」と呼ばれているC地区で行っています。ここは古くから信長の居館があったといわれている場所で、その1番奥にあたるC8区では庭園の池が見つかりました。

今までにA地区やB地区でも庭園が見つかっており、特別な客人をもてなす、迎賓館のような場所であることが分かってきました。

岐阜市教育委員会
(公財) 岐阜市教育文化振興事業団

C 8区で見つかった庭園の池

C区的最奥にあたるこの場所で、池が見つかりました。背後には巨石列（きよせきれつ）と呼ばれる、大きな石を積んだものがあり、一体で庭園を造り出していたと考えられます。

池の大きさは、南北7.5m以上、東西6.1m以上あり、おおそ楕円形をし、深さは約35cmあります。底は平らで、小さな川原石が敷き詰められていますが、一部は島のように盛り上がって

た可能性があります。池の縁は緩やかな斜面となっていますが、所々に景石という庭石を抜き取ったと見られる穴があります。また西側の縁には礎石（そせき）という、柱の土台が見つかりました。

池の中には焼けた壁土や炭がたくさん入っており、火事の後に埋まっていることが分かりました。また底からは手水鉢（ちょうずばち）と見られる石製品が出土しました。



反対側から見た池の様子です。底には小さな川原石が敷き詰められています。また観賞用の庭石（景石・けいせき）を抜き取り、割ったかけらが、たくさん散乱しています。

西斜面の様子



手水鉢（ちょうずばち）の出土の様子

花崗岩（かこうがん）という石をくり抜いて作られた箱形の器の一部です。手水鉢という手洗い用の器の可能性が高いです。



景石（けいせき）抜き取り穴の様子

景石という観賞用の庭石を抜き取った穴と考えられます。穴の中には緑色片岩（りょくしょくへんがん）という和歌山や四国で産出する石があります。